

K.Mさん 大学院先端科学技術研究科 建築・建設環境工学専攻博士課程（後期）修了

交通計画およびAI技術に関する研究に取り組み、博士（工学）を取得

一般社団法人研究所 研究職

都市・交通分野を中心とした調査研究業務に従事。交通安全分野に関する研究開発に加え、AI技術を活用した交通課題の分析や予測技術の開発などを担当。現在は研究業務に加え、プロジェクト提案や業務マネジメントにも携わる。

大学院での研究活動および就職活動、企業就職の理由

大学院での研究活動および就職活動、現在の仕事について

修士課程では首都圏の鉄道利用者の行動分析に関する研究に取り組み、学術誌への論文掲載を達成しました。博士課程では研究テーマを大きく変更し、高齢運転者の交通事故防止技術の開発に挑戦しました。研究室内でも前例の少ないテーマであり、研究計画の立案から実験設計までを主体的に進める経験を積みしました。

博士課程では研究そのものに加え、研究室運営や後輩指導にも携わりました。研究活動を通じて、自ら課題を設定し計画的に研究を遂行する力や、多様な関係者と協力しながら成果を創出する力を身につけることができました。

就職活動では、研究成果だけでなく社会実装の現場で研究知見をどのように活用できるかに関心を持つようになりました。インターンシップを通じて研究機関の業務を経験し、研究者としての専門性を活かしながら社会課題の解決に直接関われることに魅力を感じ、現在の職場への就職を決意しました。

博士課程での経験が現在に活かしていること

博士課程で培った研究遂行能力、課題発見能力、論理的な説明力は、現在の業務において大きな強みとなっています。調査研究業務では限られた期間の中で計画的にプロジェクトを推進する必要があるため、博士課程で身につけたマネジメント力が役立っています。

また、提案書作成や成果報告では、専門的な内容を分かりやすく伝える力が求められます。論文執筆や学会発表で培ったプレゼンテーション能力や説明能力は、行政機関や関係者への説明にも活かされています。

さらに、博士号取得後も研究活動を継続し、競争的研究資金の獲得や新たな研究テーマへの挑戦につながっています。

大学院先端科学技術研究科博士課程（後期）を目指す方へのメッセージ

博士課程では、自分自身で課題を見つけ、答えのない問いに向き合い続ける力が求められます。一方で、その経験は研究者だけでなく、企業や研究機関など幅広い分野で活かすことができます。

失敗を恐れず挑戦し、自分だけの強みを見つけてください。博士号取得までの道のりに決まった正解はありません。自身が納得できる研究生活を送り、その経験を将来のキャリアにつなげてほしいと思います。

経 歴

2016（平成28）年3月	東京電機大学理工学部理工学科建築・都市環境学系卒業
2018（平成30）年3月	同 大学院理工学研究科建築・都市環境学専攻修士課程修了
2021（令和3）年3月	同 大学院先端科学技術研究科建築・建設環境工学専攻専攻博士課程（後期）修了
2021（令和3）年4月	一般財団法人研究所 研究職